

くらた てつろう
倉田哲郎
(34歳)
元箕面市政策総括監



倉田哲郎が約束する
「箕面の未来」



さあ、まっすぐに
新しい
箕面の明日へ!

CHANGE



停滞を打破。 若さと実行力で 箕面をチェンジ!!

今回の市長選挙は、今後の箕面市の命運を左右する重要な選挙です。

私、倉田哲郎は、今の停滞した市政を打破し、大好きな箕面をもっともっと素晴らしいまちにしたいと考え、市長選挙への挑戦を決意しました。

箕面を明るく住みよいまちにしたいという情熱は誰にも負けません。

退路を断ち、箕面に骨を埋める覚悟で挑戦しています。

箕面を変えること、もっと明るく、もっともっと素晴らしい地域にしていくこと。そのためには、なによりも市民のみなさんのお力添えが必要です。

倉田哲郎はスピード感をもって

「12の約束」を着実に実行し、信頼と安心の確かな市政を実現するため、全力で突っ走ります。

倉田 哲郎

CHANGE



倉田哲郎の重点プラン

高
齢者

お年寄りから子どもまで、

安心・支えあい最優先!!



お年寄りから子どもまで、障害のある人もない人も、

誰もが互いに優しく支えあい、安心できるまちづくりを進めます。

箕面市立病院と近隣病院とが連携して医療サービスを充実します。

いつまでもお元気に活躍される高齢者を表彰します。

子
ども

子どもに投資! 子どもを大事に! 子どもを育てる!

子育てしやすさ日本一!!



箕面が将来も活気ある“まち”であり続けるために、子どもたちが健やかに

たくさん育つことが必要です。子育てしやすさ日本一をめざします。

小学校入学まで医療費を助成し、子どもの健康を守ります。

エアコンやトイレなど小・中学校の施設を計画的にグレードアップします。

緑

緑を守る! 緑を増やそう! 緑と暮らす!

緑・住みやすさ最先端!!



箕面のまちを特徴づける一番の魅力・特徴は、山の緑に代表される豊かな

自然環境と良好な住環境です。こうした魅力を守り、さらに発展させます。

山なみ景観の保全や古木・巨木・生け垣緑化などに助成します。

気軽に花や野菜づくりなど農地に親しめる仲介制度をつくります。

活
力

みんなの市役所元気印!!



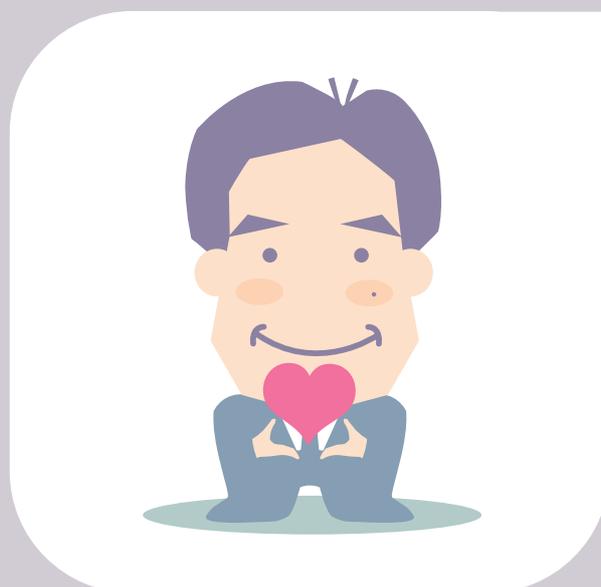
リーダーシップを発揮し、職員が市民のために能力を最大限発揮できる
市役所に改革し、市民・利用者の視点で市民サービスを向上させます。

税金を1円たりとも無駄にしない市役所にします。

税金の支払いはコンビニで、住民票は土日近くで発行します。

安心・支えあい 最優先!!

お年寄りから子どもまで、障害のある人もない人も
誰もが互いに優しく支えあい、安心できるまちにします。



高齢化の進展が早いと言われる箕面であるからこそ、
単に「高齢化“問題”」と片付けるのではなく、
ご高齢の方と私たち子や孫の世代がともに長生きを祝える文化を
箕面でつくっていききたい。

そして、みんながともに優しく支えあえる、
そんな文化を箕面から全国に発信していききたい。
ご高齢の方も、どの世代も、楽しく安心して暮らしていける。
倉田哲郎は、そんな箕面をつくるのが大きな目標です。

1

高齢者の健康を守るとともに生きがいづくりを支援します！

高齢者が生きがいを持って元気はつらつと生活できるまちをつくります。また、病気になった時でも安心できるように、北大阪地域の恵まれた医療資源を活かして医療サービスを充実します。

■ ■ ■ ■ ■ そのため

箕面市立病院と近隣病院とが連携して医療サービスを充実します。箕面市立病院と、池田・豊中の市立病院、国立循環器病センター、阪大病院などとの連携を強化し、経営の効率化を図りつつ医療サービスを充実します。

いつまでもお元気に活躍される高齢者を表彰します。高齢者の健康づくりや生きがいづくり、仲間づくりを支援するため「みのお元気はつらつ高齢者表彰」制度を創設します。



2

ご近所の「ふれあい、支えあいのネットワーク」をつくります！

お年寄りから子どもまで、ひとり親世帯も障害のある人もない人も、誰もがこの箕面の地で安心して楽しく生活が送れるように、地元の商店や事業所も含め、地域に密着した活動をしている団体やグループ、地域住民の持つチカラを活用して、「ふれあい、支えあい、ご近所づきあいのネットワーク」を充実・拡大します。

■ ■ ■ ■ ■ そのため

「ふれあいホームサービス」などの住民支えあい活動を支援します。住民同士が困ったときお互いに支えあう「ふれあいホームサービス」や「ファミリーサポート」などの相互援助活動を、より身近なところで、より多くの市民が参加して実施できるようにコーディネート機能を強化・充実します。

市民が主体となった「地域活動」をさまざまな形でサポートします。市内の飲食店や商店などの協力を得て、高齢者や子育て世代向けのサービスチケット発行等で、高齢者の外出やふれあいを促進するとともに、自治会や地区福祉会などの活性化を図り、みんなでつくる「地域の支えあいの輪」を広げていきます。



3

市民力を集めて防犯・防災体制をさらに充実します！

高齢者や障害のあるかた、子どもたちが、安全に安心して暮らせる地域づくりには、地域での見守りなどの防犯体制が大切です。また、地震や台風などの自然災害に強いまちにも、地域の支えあいが欠かせません。「市民のチカラ」を一つにまとめ、防犯・防災にいつでも備える体制を充実します。

■ ■ ■ ■ ■ そのため

災害時に避難が難しいかたの避難支援体制を充実します。ひとり暮らしの高齢者など避難が難しいかた一人ひとりの状況をしっかりと把握し、自主防災組織やPTA、消防団など地域の支えあいで、「いざ」というときにいつでも対応できる仕組みをつくります。

ペットも含めた地域ぐるみで防犯体制を強化します。防犯や環境美化の観点から飼い主がペットと一緒に地域を見守る「わんわんパトロール」の発足・支援や、飼い主のマナー向上の発信源や愛犬の運動の場としての「ドッグラン(犬の運動場)」の整備など、ペットも含めた市民力で地域の防犯体制を強化します。



子育てしやすさ 日本一 !!

まちの活気と未来に向けて、子どもがたくさん育つまち。

箕面を日本一子育てしやすいまちにします。



今、箕面は元気なまちですが、“今だけでなく、これから先も”、

ずっとずっと元気で活気あふれるまちであるために、

子どもたちや若者世代を、箕面にしっかりと呼び込む努力が必要と考えます。

そのために、箕面を“子育てしやすさ日本一”のまちにしたい。

“子育てするなら箕面だね”と呼ばれるまちにしたい。

子育て世代が、箕面めがけて引っ越してくる。

倉田哲郎は、そんな箕面をつくるのが大きな目標です。

4 子どもを安心して産み育てるための支援策を強化します!

「子育てするなら箕面市」といわれるように、まずは子どもと妊婦の健康を守るため、子どもが病気の時の医療費や妊娠から出産時までの健診費用にかかる経済的負担を軽減する支援策を強化・拡充します。

そのため

就学前まで医療費を助成し、子どもの健康を守ります。子どもが病気になった時、安心して治療が受けられるよう、子どもの医療費助成の対象年齢を就学前児童までに拡大します。さらに、就学後についても対象年齢の拡大を検討していきます。

妊娠から出産時まで全ての妊婦定期健診の費用を助成します。出産を控えた女性とお腹の赤ちゃんの健康を守り、安心して出産を迎えることができるよう、妊婦健康診査の費用助成を現在の5回から出産時までの全ての定期健診に拡大します。

乳児のいる家庭を全戸訪問し、子育てに関するアドバイスをを行います。赤ちゃんが健やかに育つよう、出産直後の育児アドバイスや子育て支援情報の提供を行うため、生後4ヶ月までの乳児のいる家庭の全戸訪問を実施します。



5 子育てと生活・仕事が両立できる育児環境を整備します!

働きたいけど子どもを預けるところがない。急な出来事やちょっとした用事の時、一時的に子どもを預かってほしいという声を多く聞きます。子育て中の親が充実した生活をおくる、それがきっと子どもの笑顔につながるはず。子育てと生活、子育てと仕事が、バランスよく両立できる環境を整備します。

そのため

保育所定員を拡大し、待機児ゼロをめざします。子育てしながら安心して働くことのできる環境を整えるため、市内の認可保育所の定員を拡大し、待機児ゼロをめざします。

預かり保育や一時保育、病後児保育などを充実します。子育てで生活が安心してできるよう、家庭内育児への支援や急な出来事の時でも利用のできる、保育所での一時保育や病後児保育、幼稚園での預かり保育などを充実します。

親と子が遊び学べる場の創設や子育てサークル活動を支援します。子どもは遊びの中で、親は子育てを通して、学び成長します。親と子が音楽を通して一緒に遊び学べる「リトミックひろば」をつくります。また、子育てサークルの活動がさらに活発化するよう支援を強化し、ママ・パパたちの交流を促進します。



6 子どもたちが元気に学び育つ学校をグレードアップし、就学環境に投資します!

育ち盛りの子供は小学校や中学校時代に多くのことを学び、吸収し、その可能性を未来へ限りなく広げていきます。そうした大切な時期を充実した環境で過ごせるよう、その基盤となる学校施設のグレードアップや少人数指導体制の充実、小中一貫教育をさらに充実するとともに、彩都における小中一貫校は「とどろみの森学園」に続き、全国モデルとなるよう整備していきます。

そのため

小・中学校の施設を計画的にグレードアップし就学環境に投資します。彩都の小中一貫校を全国モデルとして整備するとともに、子どもたちが充実した学校環境で快適に学び遊べるよう、計画的に教室への空調機器の整備やトイレの美装化など、小・中学校の施設のグレードアップを図ります。

学校での少人数指導の充実と子どもの体力づくりを支援します。児童・生徒の基礎学力の向上ときめ細かな指導を行うため、学校現場の体制を整えます。また、スポーツを通じて子どもたちの体力向上を図るため、地域の人材を指導者として積極的に活用する仕組みを整えます。

中学校デリバリー給食を導入します。食べ盛りの子供たちが必要な栄養を摂取し健やかに育つよう、中学校で希望者にデリバリー(配達)給食を導入します。

未来を担う子どもたちのために、「未来 子ども 基金」を創設します。「未来 子ども 基金」を創設し、学校や地域・家庭を問わず、子どもたちが活き活き伸び伸びと箕面のまちで成長していくことを支援する施策に活用します。



緑・住みやすさ最先端！！

緑とともに住み遊ぶ、住んでよかったと思うまち。

緑を守り、暮らしやすさを実感するまちにします。



“緑”と“住みやすさ”は箕面を特徴づける最大の要素です。

大都市「大阪」から、たった十数キロという好立地にありながら、これほどまでに豊かな山、自然、緑に囲まれた良好な住宅都市、それが箕面です。山や街中、公園に、農地、箕面のまちには、いたるところに豊かな緑があります。

箕面のトレードマークである“緑”“住みやすさ”を

市民のみなさんとともに守り育てていきたい。

倉田哲郎は、そんな箕面をつくるのが大きな目標です。

7 「みどりファンド」を設け山の緑を守り、まちの緑を育てます！

箕面のまちの一番の魅力は、住宅地に近接する山々とその緑の景観です。住宅地を彩る樹木や生け垣、地産地消のもととなる田や畑、公共施設の緑や街路樹…。「みどりファンド」を創設し、これらの緑や自然の恵みを今後も守り、育て、さらに活かすことによって“箕面”のブランド力を高めていきます。

そのため

山なみ景観の保全や古木・巨木・生け垣緑化などに助成します。「みどりファンド」を創設し、住宅地の古木や巨木、シンボルツリーの植栽や生垣緑化に対し助成を始めます。また、新たに止々呂美地区で「山なみ景観保全地区」を指定するなど、山の緑を守るための助成を充実します。

気軽に花や野菜づくりなど農地に親しめる仲介制度をつくります。市街地内に残る農地を守るため、市民と農業者を仲介する仕組みをつくります。また、レングまつりや、農家による農業塾や体験農業などの支援に取り組み、“農のある暮らし”を実現します。

ごみ減量と資源循環型社会をめざし地域レベルで行動します。啓発やイベントをより一層工夫するとともに、新たに事業系ごみの減量に取り組むなど、環境問題を地球的視野で考え、地域レベルで行動します。



8 お年寄りから子どもまで利用しやすい公園に再生します！

公園は、住宅地に設けられた公共空間であり地域の共有財産です。住民の憩いや遊びの場、コミュニティの場、空気浄化、気候緩和、景観スポット…。それに、いざという時の避難の場。いろいろな役割を担うこの空間を、安全に利用しやすく、かつての“井戸端”のような地域の情報交換、にぎわいの場として再生します。

そのため

利用者の話し合いのもと計画的に公園を再生していきます。公園の死角や遊具による事故をなくすなど安全管理を徹底します。それと並行して、アドプト団体や地域との話し合いをもとに、誰もが楽しく安心して利用できるような公園の再生計画を策定し、順次実施していきます。

各種イベントなどを地域で自主運営できる公園づくりを進めます。ゲートボールやボール遊び、バザーや地域イベントの実施、公開ガーデニングなど、地域で決めた利用ルールによる自主運営ができるようにし、お年寄りから子どもまで誰もが楽しめる公園づくりを進めます。



9 自家用車に頼らずに生活できる、便利で活力のあるまちづくりを進めます！

高齢化の進展により、自家用車の運転をやめる市民が増えることが予測されることから、バスや鉄道など公共交通の果たす役割は今後ますます大きくなります。バスの利便性を高め、市内を移動しやすくすることにより市民の活動を促進し、地域商業の活性化を図るとともに、かやの中央への北大阪急行線の延伸に取り組み、公共交通の充実に努めます。

そのため

福祉バスと路線バスの連携や一体化を進めます。公共施設巡回福祉バス(Mバス)の利便性向上や効率的運営のため、路線バスとの連携や一体化を進めます。また、バスを利用しやすくするために、冊子やホームページを利用して、Mバスや路線バスの路線網などの情報提供を進めます。

箕面駅・桜井駅周辺の活性化を進めます。箕面駅周辺の環境整備に取り組むとともに、滝道活性化の取り組みを進めます。また、桜井駅周辺地区の課題に特化したプロジェクトチームを編成し、地元事業者や住民の協力を得ながら環境改善や公共空間の整備などを進めます。

北大阪急行線の延伸に向けた具体的な交渉を進めます。市に対する財政的な影響やまちづくりへの貢献度、事業効果などを十分に検証しながら、国・府や鉄道事業者など関係者と積極的に交渉し、新たな事業手法の確立など延伸実現に向けた取り組みを進めます。



みんなの市役所 元気印!!

市役所に必要なのは信頼感と実行力。
機動力を発揮する、元気印の市役所にします。



どんなに素晴らしい夢を語っても、実行力がなければまったく意味がありません。

政策実現に向けた実行力、堅実な財政運営、市民の方々との信頼関係。

市役所に必要なのは信頼感と実行力だと考えます。

市民お一人お一人のために、子どもたちの未来のために、

変えるべきは思い切って変え、伸ばすべきは思い切って伸ばす。

機動力の発揮できる、時代に即応した、元気印の市役所をつくりたい。

倉田哲郎は、そんな市役所で市政を刷新します。

10 子どもたちにツケをまわさない行財政運営!

箕面市は、家計にたとえると給料以上に出費があつて赤字続きの状態、先代が貯めた貴重な貯金を食い潰して生活しています。このままでは4～5年後には大阪府のように急激な財政再建策が必要になります。将来の箕面に欠くことのできない“投資”である「子ども」と「緑」を中心に据え、メリハリをつけた財政バランスに直します。

そのため

税金を1円たりとも無駄にしない市役所にします。市役所の仕事は貴重な税金によって成り立っています。1円たりとも無駄にはできません。職員のコスト意識を徹底し、市役所の業務を大胆に見直していきます。

税金だけに頼らない。他の収入も増加させます。税金収入は限られます。支出もしっかり抑えながら、競艇事業・広告事業・滞納対策・ふるさと納税など、持続可能な財政体質にするため収入増加策に積極的に取り組みます。



11 市民の視点に立って使いやすい市役所にします!

常に市民サービスを向上することが市役所の仕事です。市民の声をしっかり聞き、職員が市民のために能力を最大限発揮する市役所に改革し、市民・利用者の視点にたち使いやすい便利な市民サービスを向上させます。

そのため

税金の支払いはコンビニで、住民票は土日に近くで発行します。税金の支払いや住民票をとるため、わざわざ昼間に銀行や市役所にまで行くのは大変です。身近にあるコンビニエンスストアで税金を支払えたり、土日にも拠点施設で住民票をとれたりできる、使いやすい市役所にします。

市役所に活気を取り戻し、機動力・総合力を発揮します。信賞必罰を徹底し、市民のために働く、やる気・元気のある職員を育て、職員一人ひとりの能力、技術と意識を高める人財育成を積極的に展開し、市役所の機動力と総合力を発揮し、市民サービスの最大化を進めます。



12 地方分権を先取りし、箕面の「地域自治の力」を高めます!

日本全体が人口減少社会に入り、少子高齢化の進展、財政危機などが進んでいく中で、地域の経済やコミュニティ・社会関係など「地域自治の力」を高める工夫が求められています。地方分権と市民自治の時代を先取りして、箕面市の良さを生かした個性あふれるまちづくりを、市民のみなさんとの協働で推進していきます。

そのため

箕面の個性を大切に、市民自治を拡充します。常に市民の立場で国や府と対等に毅然と交渉します。また、市の財政状況がよくわかる白書の作成など、市民にわかりやすい情報の提供と共有を進め、箕面の個性と地方分権の基盤を固め「地域自治の力」を高めます。

入札改革をすすめ、経営資産を最大限に活用します。環境・福祉・人権や地域貢献に配慮した入札制度改革を行います。市有地を有効に市民・地域に貸し出す基本ルールを定めるなど、市が所有している公共用地や基金などの市有資産を最大限有効活用し「地域自治の力」を高めます。



あなたは子どもたちにツケを残しますか？



箕面市の赤字財政

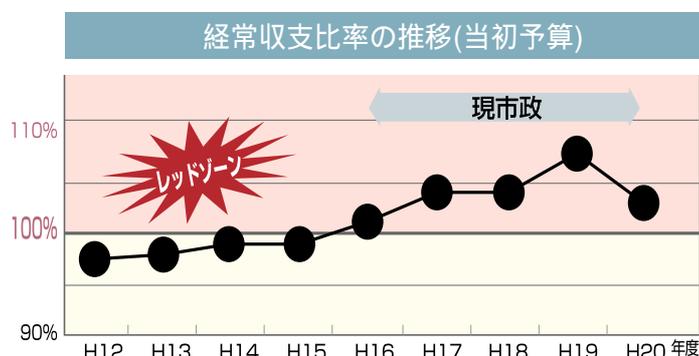


この4年間の市財政の問題点は、次の2つです。

入ってくるお金で必要な経費をまかなえていない。すなわち「赤字構造」。
そのため、毎年「貯金(基金)」を取り崩して赤字補填を続けている。

(1) “赤字体質”が定着！

現在の箕面市は、入ってくるお金で必要な経費をまかなえていません。経常収支比率は長らく何とか90%台を維持してきましたが、この4年間は、とうとう100%を超えてしまいました。これでは柔軟な財政運営ができず、市民の新たなニーズにも応えられません。

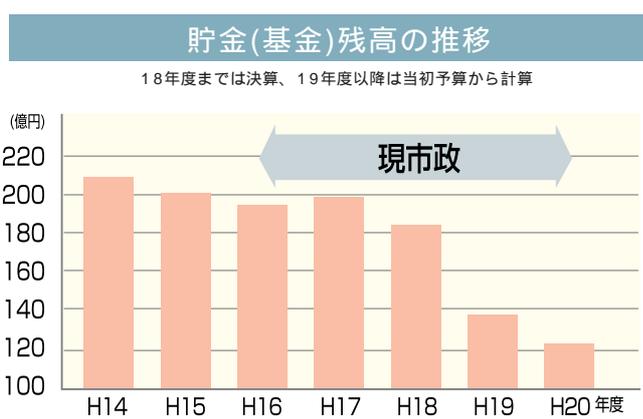


「経常収支比率」・・・市税など経常的な収入に占める経常経費（毎年決まって必要な支出）の割合を示す数値。

(2) 貯金(基金)がピンチ！

箕面市には、先人が努力して築いてきた貴重な貯金があります。この4年間、市の財政は、この貯金を取り崩し続ける運営がされてきました。

しかし、貯金での赤字補填も限界です。今の状況を続けていけば、数年先には貯金は底をつき、大阪府のように非常事態宣言を出して、さまざまな形で市民のみなさんに大きな負担や不便を強いる結果となります。



(3) メリハリのある施策推進！

今、箕面市で必要なのは、貯金に頼らずにすむ財政構造への転換です。リーダーシップと責任感ある市長のもと、メリハリのある施策推進や収入の増加策など、具体策を実施していくことが必要です。



これまでの仕事

箕面市役所で政策総括監として働いていたときには、たくさんの仕事に携わらせていただきました。
このときの経験が今の倉田哲郎の原動力となっています。

箕面の明日をつくる会発行の「まちづくりニュース“市民のチカラ”」で、
当時の仕事を整理していただきましたので、転載してご紹介させていただきます。

倉田哲郎さんは箕面市役所で何やってたの？

倉田哲郎さんは、箕面市役所で何をやってたの？

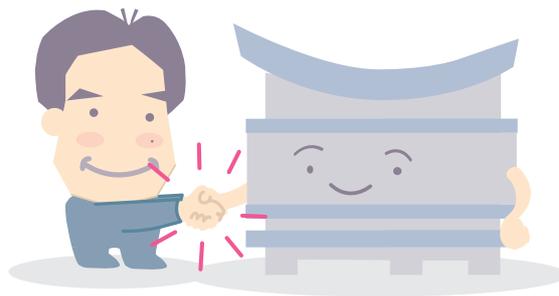
今回、調べれば調べるほど、当時の倉田哲郎さんの仕事ぶりには驚かされます。

倉田哲郎さんは、梶田市長・藤沢市長の2代にわたる市長のもと、市役所運営を支えてきました。

その時、「政局がどうであれ、行政（市役所）はやるべきことをやらねばならない」

そう強く語っていた倉田哲郎さんの揺るぎない信念で成し遂げてきたことの数々。

確かな先見性・構想力で、自ら先頭に立った仕事の一端を紹介します。



実績

行動力と交渉力で 箕面サンプラザを再編整備!!

倉田哲郎さんの真骨頂はプランを大胆かつ綿密に実行する行動力と交渉力にある。

箕面サンプラザ（箕面文化・交流センター）の機能再編

困難を極めた地階「スーパー跡」の取得交渉、再整備財源を確保するため、市有地等の売却方式を編み出す。すでに市役所第2別館は予定を上回る金額で売却。使いやすくなった郷土資料館、市民ギャラ



ラリーに多目的ホール、明るく広くなった子育て支援センター、多世代交流スペースには多くの人が訪れ、新設された音楽スタジオは多くの若者が利用。倉田哲郎さんのねらいは確かだった。

実績

人材と財源を有効活用し 市民サービスを拡充!!

倉田哲郎さんがめざしたのは、単なるコスト削減ではない。

例えば保育所を再編し

保育所定員の拡大 100人増
休日保育を新たにスタート
一時保育・延長保育を拡大



例えば市役所窓口部門を再編し

市民が「たらい回し」にされず、1つの窓口で手続きを済ますことのできる「総合窓口」を実現

市役所1階でできる手続き数

（13業務93手続き 24業務151手続きへ拡大）

窓口職員の配席を市民との対面方式に変更

これまでの仕事

箕面市役所で政策総括監として働いていたときには、たくさんの仕事に携わらせていただきました。

このときの経験が今の倉田哲郎の原動力となっています。

箕面の明日をつくる会発行の「まちづくりニュース“市民のチカラ”」で、当時の仕事を整理していただきましたので、転載してご紹介させていただきます。

倉田哲郎さんがやったこと 箕面市役所でこんな仕事をしていました

子ども

休日夜間の子ども救急体制のため、「豊能広域こども急病センター」を箕面市に誘致。
子ども政策を総合的に推進するため、教育委員会に「子ども部」を創設
学校・幼稚園・保育所の安全対策の強化(警備員を配置、フェンスの整備、監視カメラの設置、校門のオートロック化、緊急通報システム整備、防犯ブザーの配布、防犯用具配布など)
不審者情報などの市民安全メールの創設
青色安全パトロール車の導入
すべての小中学校、公共施設の耐震対策とアスベストの調査・対策を実施
小中学校へのインターネットを使った教育プログラム導入実験
学校を利用する高齢者や障害のある子どもに配慮し、東小学校にエレベータを設置
大阪府に初の小中一貫校「施設一体型」とどろみの森学園」の実現

みどり・環境

「みのお山麓保全ファンド」を創設し、市民の手による山並み・緑の保全活動を支援
第一清掃工場跡地の活用可能性と安全性の確認のため「土壌環境調査」を実施
多世代が集える場の提供として、唐池公園の大型遊具の改修を実施

安全・安心

災害・犯罪を含め危機管理体制を確立するため、市民の安全を守る核となる「市民安全政策課」を創設
迅速な消防活動を実現するため、消防梯子車の更新や、新型の消防通信司令システムの導入
タッキー(みのおエフエム)を有効活用し、消防署との連絡体制や、広報紙への情報掲載を強化
公園遊具の安全点検の一斉実施

活性化

商業・観光業・農業とNPOなどの市民活動の相乗効果を発揮させるため、「地域振興部」を創設
箕面駅前・滝道の活性化を仕掛ける箕面わいわい(株)を設立。橋本亭の復活・箕面山七日市を支援。
箕面駅前・桜井駅前の活性化緊急特別対策を提案・決定。箕面駅前整備計画の策定に着手
新たな船場のまちづくりを支援するため「都市再生調査」を実施

福祉・暮らし

周南できめ細かな高齢者サービスを提供する「街かどデイハウス」に助成
高齢者や障害者の在宅生活の拠点としての「光明の郷ケアセンター」「障害者福祉センターささゆり園」を再整備
公共施設の予約をインターネットでできる公共施設予約システムを拡充
路線バスの環境配慮とバリアフリーを両立するため、高齢者も乗りやすいノンステップバス&低公害型車両への変更誘導策を実施
桜井駅の利便性向上のため、エレベータ・多目的トイレを新設

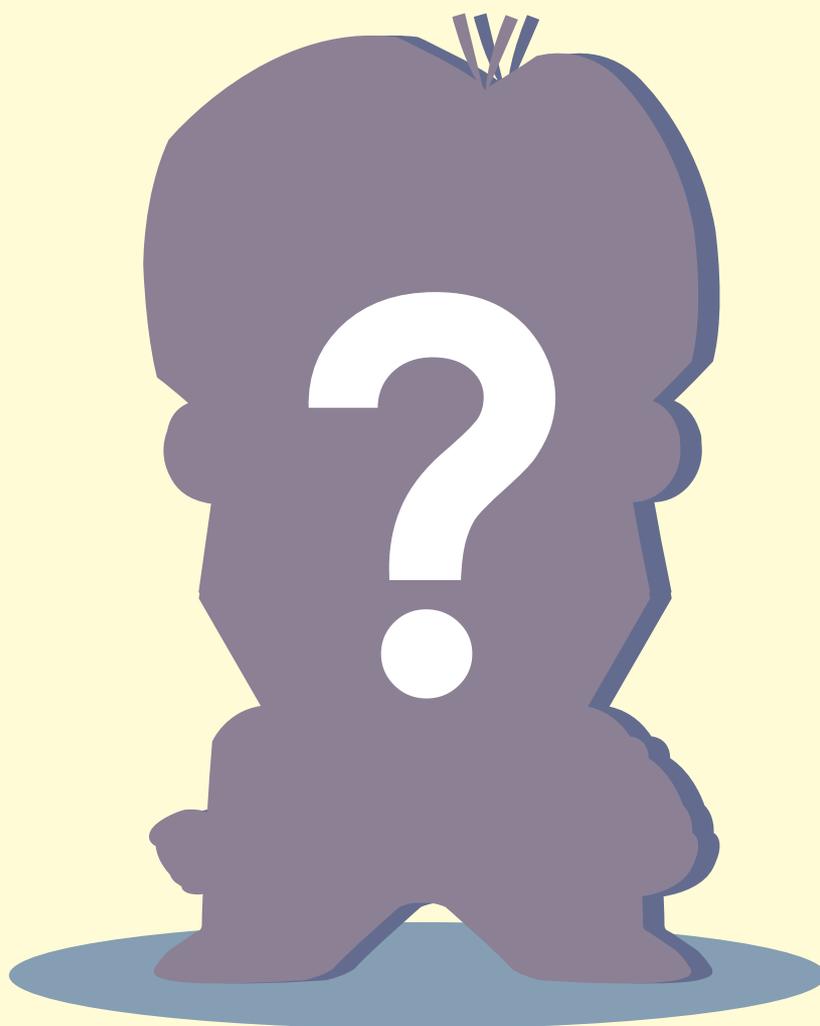
協働

市民の声を行政に反映するため「市民満足度アンケート調査」を導入
市民団体・NPO、自治会などを巻き込んだ「地域と行政の協働の新しい仕組みのあり方」プロジェクトの実施
市役所の業務見直しと同時に、市役所へのNPOや民間活力の積極的な導入
地域NPOや民間活用による指定管理者制度を公共施設に導入(コミュニティセンター、青少年教学の森野外活動センター、市民活動センター、メイプルホール、グリーンホール、箕面文化・交流センター、総合運動場、ささゆり園、あかつき園、ワークセンターささゆり、老人デイサービスセンター、医療保健センター、介護老人保健施設、駐車場、老人いこいの家)
外郭団体(国際交流協会、文化振興事業団、障害者事業団、社会福祉協議会、あかつき福祉会、医療保健センター、シルバー人材センター等)の「経営改革計画」の策定や、人材登用のため事務局長の民間公募制度の創設

経営センス

市民の視線に立った市役所サービスを実現するため「市民サービス政策課」を創設
新たな財源確保のため、市役所に広告事業を導入。市役所の窓口封筒をはじめ、ホームページや広報紙を広告媒体として活用
監査法人トーマツの協力を得て、市役所に民間企業の財務分析手法を導入
民間企業(ココヨ)とタイアップし(無償で)市役所の業務見直しを実施
市役所を外部の視点からチェックするため、新たに「行政評価・改革推進委員会」を設置
財務会計システムをはじめ市役所のITシステムの整理・効率化とコストダウンを実施
市役所の職員採用試験に大量の若手職員面接を導入するなど、採用制度を改革

「市政に対する考え方や、
プランについてはもちろんだけど、
“人間・倉田哲郎”についても興味がある」そう思ってくださいる方に
「倉田哲郎後援会」発行の「後援会のしおり」から
倉田哲郎の「人となり」について書かれた記事をご紹介します。
次のページをごらんください。



えにし 縁



relation

倉田さんの箕面との縁は、箕面市役所への出向で始まった、「2年半の在籍中、市民のまちづくりに対する熱い思いに触れ、密接した施策の大切さを痛感した」と語る。

この10年、日本社会の激変により、全国の自治体が荒波の中に放り込まれている。こんな難しい情勢の中にこそ自分の働きどころがあると、箕面に骨を埋める決意をした倉田さん。箕面でかけがいのない伴侶を得、のちに子も授かった彼の箕面への思いは人一倍強い。



仕事



vocation

「いつときもおろそかにせず、市民と地域のために働くのが公務員」と語る倉田さん。実際、彼が箕面市に出向していた2年半はその通りのことを実践した。その上で「市役所全員が有効に機能してこそよいアイデアが生み出される。だから、職員のやる気を引き出すのは市長の責務。市役所に活気が戻らないと箕面は元気にならない」とも語る。これが倉田さんの基本スタイルなのだ。



子育て



bring up children

倉田さんは、いま子育て奮闘中。彼は子どもをお風呂に入れたくてしょうがない。顔を洗うと泣き出してしまいが、それも楽しいらしい。そんな子煩悩な父親である。「子どもが被害に遭う報道に触れるたび、そうならないようにするにはどうしたらいいんだろう。行政や政治は何ができるんだろう。できるならなぜしないんだろうと考え込んでしまう」という。親として、そして地方自治を志す者として...



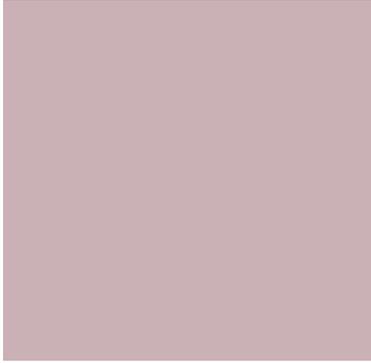
気骨



backbone

「議会や府、国相手のケンカも辞さない。ケンカしても崩れない信頼関係を築くことが大切」「国の事情に精通していることと、国の言いなりになるとは別」。倉田さんの発言の多くからは、市民の側に立ってものを見ることのできる感性と、府や国とも対等に渡り合える彼の能力や気骨が垣間見える。水府流太田派・日本泳法の教士資格を持つ倉田さんは、教員にあたる時真新しいフンドシを締め、水に入る。箕面市民となる決意をした日、倉田さんはフンドシを締め直したはずだ。





倉田哲郎のプロフィール

昭和49年(1974年)静岡県清水市に生まれる

平成 9年(1997年)東京大学法学部卒業 郵政省入省

平成13年(2001年)から総務省

平成15年(2003年)から箕面市役所に勤務 「改革」と「政策」を担当

箕面市役所では、「行政評価・改革推進委員会」発足など「変化の波」を起こす一方、「子ども部」「地域振興部」の創設や、市民の側に立った「総合窓口」の実現など、「新しい時代」にふさわしい行政へと行革を進めた

平成18年(2006年)総務省へ戻るも、慣れ親しんだ箕面の地で地方自治の仕事を目指し、平成20年(2008年)3月退職

趣味・特技は日本泳法(水府流太田派) 日本水泳連盟主催の全国大会では団体戦優勝
家族は、箕面で出会った妻と、平成19年(2007年)9月に箕面で生まれた息子